



阿南市の花「ひまわり」の花言葉は、「光輝く」です。人権について考え守っていくことが、まさに光り輝く阿南市づくりにつながります。人権教育・啓発コーナー「ひまわり」では、市民の皆様の人権に対する思いを掲載しています。

特定失踪者の家族として

阿南市人権教育・啓発講師団講師

賀上文代さん

今から12年半前のことです。末娘も18歳となり、3人の子どもの母親として、子育て卒業までもうひと頑張りと思っていた矢先のことでした。

突然の息子の失踪。その現実に驚き、戸惑いのなか、単なる失踪ではなく、事件として捜査してほしいと警察に訴えました。しかし、「これが女性と子どもだったら話は別ですよ!」と、成人した男性というだけで聞く耳すら持つてもらえませんでした。それでも警察を頼るしか方法はなくお願いし続けましたが、11カ月を過ぎた頃「お母さんが、いくら来られても、本人に動きがなければ警察としても捜しようがないです」と言われてしまいました。もし息

2012年末、「救う会徳島」会長の情報公開の要請により、警察庁より北朝鮮による拉致の可能性が排除できない失踪者（特定失踪者）が868人もいることが都道府県別に発表されました。徳島県からも8人の方の名前があがっています。息子もその中の1人ということ、「事件では？」との観点からようやく警察で捜査していただけることとなりました。息子の場合、何一つ証拠となるものは無く北朝鮮による拉致だと言いつけることはできませんが、警察庁によるこの特定失踪者の発表は、小泉元首相の訪朝後、11年以上もの間、何の進展もなく不安に思っていた私たちにとって、息子の存在を残すもの一つとして強い味方となりました。

子が拉致されたのなら、本人からの動き等望めるわけがありません。警察に失望し、落ち込みながらも、どうやって捜せばよいものか考え、テレビ番組で呼びかけたりもしました。しかし、息子につながる情報は無く、「いったい何があつたのだろうか?」という疑問のまま今日を迎えています。

このような現状のなか、2003年に設立された「救う会徳島」の皆さまにサポートしていただき、ありがたく思っています。会員はボランティアですが、それぞれが自分のことのように親身になって考えてくださり、設立から11年の間変わることなく支え続けてくださっています。

2年ほど前に、（政策なのかわかりませんが）特定失踪者が切り捨てにされるのでは?と不安に感じた時がありました。政府には300人以上といわれている拉致議連の議員さんがいるのに、なぜこの問題は前進しないのでしょうか。

これからのために関係される機関には改善されることを望みます。政策等により再び（日本政府による）被害者とならないように願わずにはいられません。

息子のことで気付いたことに、絆の大切さがあります。息子はおしゃべりな子でしたので、いなくなるまで本当にたくさん話をしました。私は息子を信じています。息子との間に信頼関係がなければ、これほど強い気持ちで国や警察そして皆さまに訴えることはできなかったと思います。家族があきらめたら、未解決のまま終わってしまいます。

「拉致」は人間が自分の意思で自由に生きるという最低限の権利さえ奪ってしまう人権侵害です。何十年という長期間にわたる、北朝鮮による現在進行中の国家犯罪です。

どうか皆さまも遠い話とかわないでください。自分の身にも起こり得る事との認識のもと、自分の身を守るために、今何をすべきかを考えてみてください。

一日も早く拉致問題が全容解決され、お互いの国のを助け合える日が来ることを願っています。

問い合わせは

人権・男女参画課

(☎22-3094) へ

